



## 色彩館に咲く

### ヤブツバキ

*Camellia japonica* L.

ツバキ科ツバキ属

原産地：日本に広く分布



### 艶やかな赤い花

ヤブツバキは、青森県以南、朝鮮半島南部、台湾に分布する常緑高木で、高さは大きなものは10mを超えるものもあるそうです。多くは海岸沿いや山地に生え、よく分枝し、大きな茂みになります。花は枝先に着花し、一重咲きで、鮮やかな赤から紅色で、目を引く筒状にまとまった黄色の雄しべが特徴的です。また、サザンカと違い、花首からポトリと落ちた花は、まるで作り物のように美しく、水盤に浮かべても大変風流です。葉は深緑色で硬く光沢があり、楕円形をしています。ゴルフボールくらいのおおきな実がなり、果実は厚くて硬く、熟すと裂果して種がでます。京都の龍安寺には室町時代のツバキが残っているなど、古くから栽培されており、数多くの園芸品種があります。花の観賞価値が高く、万葉集の頃から知られていましたが、茶花としても珍重されてきました。

学名は、18世紀にヨーロッパにツバキを紹介した、イエズス会の助修士で植物学に造詣の深かったゲオルク・ヨーゼフ・カメルに因み、カール・フォン・リンネによって名付けられました。また、和名は、「厚葉樹(あつばき)」、または「艶葉樹(つやばき)」が訛っ

て「ツバキ」と呼ばれるようになったようです。

ツバキは、かつては材木としても利用されていましたが、現在、日本では大木がなくなってしまったのでほとんど流通しない貴重な材となりました。木質は固く緻密で、木目は余り目立たなく、摩耗に強いのが特徴で、印材や将棋の駒など、工芸品や細工物にも使われています。また、日本酒の醸造に使用する木灰は、アルミニウムを多く含むことからツバキのものが最高とされ、染色の色止め剤としても利用されます。その他、有名なのは椿油ですが、これは種子(実)を絞ってできるもので、用途は広く、高級食用油、整髪料として使われるほか、古くは灯りなどの燃料油としても使われていたようです。

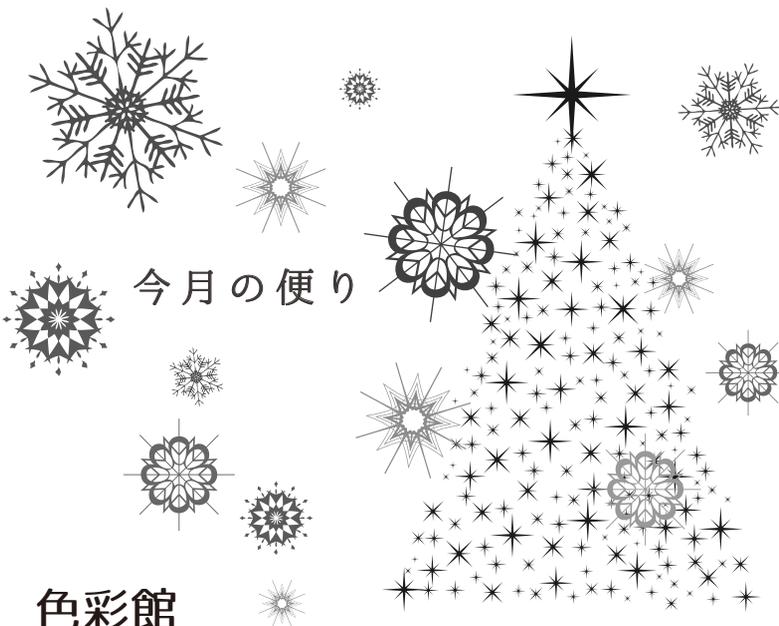
北海道では、松前町の松前公園がツバキの名所として有名ですが、全道的に見ると耐寒性は厳しく、大木のツバキを見るのは難しいので、鉢植えで楽しむのが一般的です。

色彩館のヤブツバキは11月の下旬から早くもポツリポツリと咲き始め、1月いっぱい楽しめるのではないのでしょうか。成人式の記念撮影にもぴったりのですよ。

# ばらろく



ローズヒップティーに使われるローズヒップって何の品種ですか？と、よく質問を受けます。一般的にお茶として流通しているのはロサ・カニナが多いようですが、カニナしかお茶にすることができないわけではありませんよ。ご自宅で育てているバラにローズヒップがたくさん実るのであれば、ぜひお茶にしてみてください。ただ、お茶にする場合、中の種を取り除くので、実が大きめの方が作り易いと思います。作り方は簡単です。収穫した実をきれいに洗い、萼や中の種をきれいに取り除いて、乾燥させるだけです。天日干しでもいいですが、オーブンやトースターなどで焦がさないよう様子を見ながら乾燥させるとあっという間に出来上がります。あとは、市販のローズヒップティーと同じようにお湯で抽出してお召し上がりください。



今月の便り

## 色彩館

温室ではサザンカが見頃を迎え、そろそろヤブツバキも咲き始めます。コルヌスの紅葉もとてもきれいです。色彩館の売店ではクリスマスリースの販売をしています。

## バラ園

ようやく冬囲いも落ち着き、すっかり雪に覆われたバラ園。バラは雪の中でじっと春を待ちます。この雪の恵みのおかげで寒さから守ってもらえるのですが、多すぎるのはまた困りものです。

## 花と緑の供給センター

バラ園の冬囲いを手伝って、落ち着いたのも束の間、クリスマス辺りからはパンジーとビオラの播種作業が始まります。一年がとても早いです。

## 白い息の話



はあ——。

いよいよ寒い冬の季節です。外に出ると息が白く残ります。普段では目視することのない、空気の形を垣間見ることができる現象です。この現象は通常では見えない水蒸気と、ヒトが吐く息の温度と冬の低い気温の差によって起こります。ヒトの吐く息は体温と同程度の温度を持つため、息に含まれている水蒸気は急に冷やされることで水滴に変わり、白く見ることができるのです。また、湿度が高いほど空気中の水蒸気が多く含まれるので、吐く息がより白く見ることができます。寒い冬、ふうーっと手に息を吹き吹き、外を歩くもの乙かもしれません。どうぞあったかくしてお過ごしください。

よし  
なし  
ごと

# ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹  
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗  
(イラストレーター)



## 第二十一回

ガリカローズ

シャルルドゥミル

Charles de Mills

作出国：オランダ

作出者：不明

作出年：1790年以前

ハーディネスゾーン：Z4

一季咲き性

交配：不明

花容は、ガリカローズの典型でもあるクォーターロゼット咲きで、大きく華やかで、深いローズレッド色の花を咲かせ、大株になると満開時は大変見事です。とても生育旺盛で、耐病性、耐寒性も優秀であり、咲き進むにしたがって、わずかに紫色になっていきます。香りは強いダマスク香があります。樹形は、シュラブ樹形になり、ごついつが少なく、枝がしなやかなので非常に扱い易く、自立させて自然系でも、鉢植えでも、ちょっとしたフェンスなどに誘引して小型のつるバラとしても楽しめます。

ガリカローズという系統は、現存するバラの中で最も古くから栽培記録の残る系統で、遺伝子学的には、赤バラの基になったとされ、多くは深い赤色の花色をもちます。香りが豊かなものが多いので、ポプリやバラ水、ハーブティーにして楽しむこともできます。12世紀以前から栽培されている、ガリカの古い品種であるロサガリカオフィキナリスは「アポセカリーローズ(薬屋のバラ)」とも呼ばれ、昔から薬

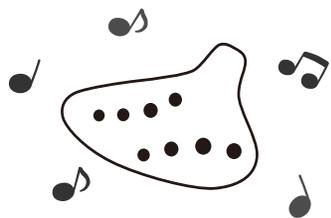
用として栽培されてきました。

ガリカローズはオールドローズのグループの代表的な系統ですが、オールドローズの定義は諸説あります。現在一般的に多く用いられる説は、チャイナローズの遺伝子が色濃く反映され、完全な繰り返し咲き性が確立された、ハイブリッドティー系が誕生する以前の系統をオールドローズ、誕生以降をモダンローズとする説です。いずれの説も、繰り返し咲き性の血筋が入ったかどうか分岐点になっています。そのため、来年、新しいオールドローズが誕生する可能性だって大いにあるわけなのです。

当園のオールドローズの小径で栽培しているシャルルドゥミルは、樹高約1.5mくらいにはなり、ようやく本来の姿を現してきました。今年は、昨年と比べてぐっと株が大きくなり、来年の開花がとても楽しみです。来年6月中下旬頃から見頃を迎えますので、その時期には是非、芳しい深みのある香りとクラシカルで華やかな花を楽しみにいらしてください。



# クリスマス オカリナコンサート



オカリナ 斉藤 かすみさん  
ピアノ 家下 優子さん



リース販売もするよ～

当日は 13:00より  
温室入園無料です



12/6 日

14:00～15:00

会場:いわみざわ公園バラ園  
色彩館 大温室

お待ちしております♪

## 12月の市民園芸講座のご案内

これは面白い!



- 12月6日(日) 13:00～15:00 お正月のアレンジメント  
有料 2000円 定員:40名 講師:伊藤 とみ子さん 中央フラワー協会
- 12月19日(日) 13:00～15:00 体験してみよう!樹木の香り  
無料 定員:40名 講師:脇田 陽一さん 道総研 林業試験場 研究主幹
- 1月17日(日) 13:00～15:00 折りバラを楽しもう 上級  
有料 300円 定員:15名 講師:バラ園スタッフ
- 1月22日(日) 13:00～15:00 春に向けて種をまこう  
有料 500円 定員:15名 講師:バラ園スタッフ